

外為ウィークリービュー I 北米編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/07/04

「米雇用統計」を軸とする 1 週間

通貨ペア	基調		ページ数
ドル/円	➡	週後半のムードの変化に注意 予想レンジ: 79.50 ~ 82.20 円	2 - 3
カナダ/円	➡	米雇用環境の改善が焦点に 予想レンジ: 82.80 ~ 85.60 円	4 - 5
経済指標 カレンダー	一週間の予定を一覧で表示		6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD/JPY

ドル/円 6/27~7/1の主な推移



6/27 Monday	日経平均が安寄りし、さらに下げ幅を拡大する動きになると、対ユーロを中心にドル高が進行。このドル高がドル/円相場にも波及した他、仲値公示に向けたドル需要等も相まって、ドル/円は80.80円台に乗せた(①)。さらに、NY市場序盤にギリシャ議会で緊縮財政案が可決される見通しとの見方が広がると、米国債利回りが上昇し、ドル/円は一時80.98円まで上昇した。
6/28 Tuesday	ギリシャの緊縮財政案の議会通過見通しや、欧州中銀(ECB)のトリシェ総裁がインフレに対して強い警戒姿勢を示したことを背景に対ユーロなどでドル安が進むと、ドル/円は80.66円まで下げた。しかし、前日の安値(80.63円付近)付近では底堅く、すぐに反発。その後、NYダウ平均が堅調に推移する中、米国債利回りが上昇すると、ドル/円は6月2日以来の高値水準である81.26円まで上昇した(②)。
6/29 Wednesday	夕方、欧州株が堅調に推移する中でクロス円(ユーロ/円、豪ドル/円など)が上昇すると、ドル/円は81.19円まで連れ高となった。しかし上値は重く、22時過ぎに一部通信社が「ギリシャ議会にて緊縮財政案の可決に十分な賛成票が確保された」と報じると、材料出尽くしと見た向きによるユーロの売りが入り、ユーロ/円が急落。これに連れてドル/円はストップロス巻き込みながら80.56円まで下落した(③)。ただ、ギリシャの緊縮財政案可決を好感して金融市場全般的にリスク回避ムードが後退し、米長期金利が上昇すると、ドル/円は下げ幅を縮小した。
6/30 Thursday	前日、ギリシャ議会で緊縮財政案が可決されたことや、欧州中銀(ECB)が7日の理事会にて利上げを行うとの観測から、朝方からユーロ/ドルでユーロ高・ドル安が進行すると、ドル/円でもドル売りが強まった(④)。21時45分に発表された米新規失業保険申請件数が42.8万件と市場予想(42.0)よりも雇用が弱いことを示す結果になったことでドル/円は80.25円の安値をつけた(⑤)。しかし、その後は反発。さらに、22時45分に発表された米6月シカゴ購買部協会景気指数が61.1と市場予想(54.0)を大幅に上回ると、米国債利回りが大きく上昇し、ドル/円は80.85円まで反発した。
7/1 Friday	NY市場序盤に格付け会社ムーディーズがドイツの12の銀行を格下げ方向で見直すと発表し、対ユーロでドル高が進むと、ドル/円でもドル買いが優勢となった。さらに、23時に発表された米6月ISM製造業景況指数が55.3と、市場予想(52.0)を大幅に上回る好結果だったことで米国債利回りが上昇すると、ドル/円は81.14円まで値を伸ばした(⑥)。しかし、81円台では上値が重く、米国の3連休を控えていたこともあり、その後は上げ幅を縮小する流れとなった。

USD / JPY

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米政策金利の早期引き上げ観測
- ・米長期金利の上昇
- ・米金融緩和策の巻き戻し観測
- ・日本の財政悪化懸念
- ・日銀による追加金融緩和への期待
- ・(本邦およびG7による)円売り介入

下落要因(ドル安・円高)

- ・米超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の低下
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・米追加金融緩和観測の台頭

今週の見通し

6月のドル/円相場は79.69円から81.26円と、僅か1.57円のレンジで横ばいに推移した。先週については80.25円から81.26円の1.01円幅である。方向感のない展開が続いているが、今週は主要各国で経済イベントが多く、ドル/円は8日発表の米6月雇用統計を睨んで、レンジブレイクを試す流れとなる。

先週末の米6月ISM製造業景況指数が良好な結果だったため、今週前半は比較的楽観的なムードが広がりやすいとみる。米国債利回りが大幅に上昇すれば、ドル/円は先週の高値81.26円を突破する可能性は否定できない。ただし、7日以降は要注意。米雇用統計の先行指標であるADP全国雇用者数が予想よりも悪ければ、市場の空気が一転して弱いものになるだろう。米雇用統計についても同様のことが言え、雇用統計が市場予想よりも大幅に悪い内容であれば、再び80.00円割れを試す流れになることも考えられる。もちろん、雇用関連指標が市場予想よりも良好な結果となれば、米国債利回りが上昇し、ドル/円も大幅に上昇しよう。

また、引き続きギリシャの債務問題や欧州中銀(ECB)の理事会を背景とするユーロ/ドルの動きにも注意したい。先週は対ユーロでのドルの動きにドル/円も連れることが多かった。ECBは7日に金融政策を発表する予定で、今回は利上げに踏み切る公算と市場では見られている。発表前に利上げを睨んだユーロ買い・ドル売りが出れば、ドル/円ではドル安圧力が掛かることになる。7日に利上げが実際に行われた場合、その後のトリシェECB総裁による声明にてさらなる追加利上げを示唆すればさらにユーロ高・ドル安が進み、ドル/円の上値を押さえるとみられるが、当面は様子見の姿勢が示された場合はユーロが対ドルで一旦売られ、ドル/円にはドル高圧力が掛かると考えられる。また、ギリシャの債務問題については、120億ユーロの第5次融資も行われる方向で調整が進んでいるが、追加支援についての協議は進行中で、関連報道を受けて相場が急激に動く可能性もあり、今週も波乱要因となってくるだろう。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 79.50~82.20円)

CAD/JPY

カナダ/円 6/27~7/1の主な推移



6/27 Monday	仏サルコジ大統領が「仏民間銀行とギリシャ国債の乗り換え(ロール・オーバー)について合意した」と発表。これを受けてギリシャ債務問題への懸念が和らぎ、NYダウ平均株価が上昇すると、カナダ/円は82.02円まで上昇した。(①)
6/28 Tuesday	ギリシャ議会において、緊縮財政5カ年計画が可決される見通しとなった事を好感してNYダウ平均株価が寄り付きから上昇すると、リスクを積極的に取る動きが強まり、カナダ/円は上昇した。さらにその後、米5年債入札が不調に終わり米長期金利が上昇した事を受けてドル/円が上昇した事もあって、カナダ/円は82.60円まで値を上げた。(②)
6/29 Wednesday	加5月消費者物価指数が前年比で+3.7%と予想(+3.3%)を大きく上回った事を受けてカナダ/円は83.46円まで上昇した。その後、ギリシャ議会で緊縮財政5カ年計画が賛成多数で可決された事が伝わると、目先の材料出尽くし感から、ユーロ/円が急落。これにつれてカナダ/円は一時83円を割り込んだ。しかし、その後は、ギリシャの債務不履行懸念が後退したとしてNYダウ平均株価が上昇した事に加え、在庫の減少を受けて原油価格が上昇した事からカナダ/円は再び上昇に転じた。(③)
6/30 Thursday	米6月シカゴ購買部協会指数が予想を大きく上回った事を好感して、NYダウ平均株価が上昇すると、カナダ/円も上昇。米長期金利の上昇を背景にドル/円が上昇した事もあって、カナダ/円は83.85円まで上昇した。(④)
7/1 Friday	米6月ISM製造業景況指数が予想外の改善となった事を好感して、米国景気の減速懸念がやや後退すると、NYダウ平均株価が大幅高となった。株高を背景に、リスクを積極的に取る動きが強まると、カナダ/円は84.33円の高値を付けた。(⑤)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

上昇要因(カナダドル高・円安)

- ・世界経済回復期待の高まり
→リスクを取ることへの積極性が増す
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測
- ・原油など資源価格の上昇
- ・日銀の追加金融緩和への期待
- ・(本邦及びG7協調による)円売り介入

下落要因(カナダドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
- 日米(主要国)株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測の後退
- ・中国など新興国の引き締め観測

今週の見通し

先週のカナダ/円相場は81.29円～84.33円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約3.6%の大幅上昇(カナダドル高・円安)となった。この間、NYダウ平均株価が5営業日連騰して、その上昇率は約5.4%に達しており、原油相場も連騰こそならなかったものの、週間ベースでは約4.1%上昇した。ギリシャのデフォルト(債務不履行)懸念が一旦後退した事や、米経済指標の好転を受けて、米景気減速懸念がやや後退した事を背景に株高・原油高が進み、これにつれる形でカナダ/円も5営業日連続で陽線を記録した。今週も、リスク・オンの流れが続くのかどうか、カナダ/円相場のカギを握る事になる。材料的には、8日の米6月雇用統計が最も注目されるが、6日の米6月ISM非製造業景況指数や7日の米6月ADP全国雇用者数の結果にも注目となる。先週の米6月ISM製造業景況指数の改善を受けて、米国製造業の失速懸念がやや後退する中、米国の雇用環境にも改善期待が高まれば、米国株が一段高となりそうで、カナダ/円も上値を伸ばす場面がありそうだ。もっとも、週毎に発表される(今週は7日発表)米新規失業保険申請件数は、5月から目立った改善は見られておらず、8日の米雇用統計でも雇用者の大幅増加は期待しにくいところではある。また、8日にはカナダでも6月雇用統計が発表されるが、時間的に、米雇用統計の前という事もあり、材料視されにくいだろう。(神田)

(予想レンジ: 82.80～85.60円)

経済指標カレンダー (7/4~7)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
7/4			米国休場(米国独立記念日)		
(月)	10:30	○	(豪) 5月小売売上高 [前月比]	+1.1%	—
	10:30		(豪) 5月住宅建設許可件数 [前月比]	-1.3%	—
	16:15		(スイス) 5月実質小売売上高 [前年比]	+7.5%	—
	17:30	◎	(英) 6月PMI建設業	54.0	—
	18:00		(ユーロ圏) 5月生産者物価指数 [前年比]	+6.7%	+6.3%
7/5	10:30	○	(豪) 5月貿易収支	+15.97億AUD	—
(火)	13:30	◎	(豪) RBAキャシュターゲット	4.75%	—
	17:30	◎	(英) 6月PMIサービス業	53.8	53.3
	18:00	○	(ユーロ圏) 5月小売売上高 [前月比]	+0.9%	-0.1%
		○	(ユーロ圏) 5月小売売上高 [前年比]	+1.1%	-0.6%
	23:00		(米) 5月製造業受注指数 [前月比]	-1.2%	+1.0%
7/6			(日) 5月景気動向指数・速報 [一致CI指数]	103.6	106.1
(水)	14:00		(日) 5月景気動向指数・速報 [先行CI指数]	96.2	99.8
	19:00		(独) 5月製造業受注 [前月比]	+2.8%	-0.1%
	21:30		(加) 5月住宅建設許可 [前月比]	-21.1%	+5.0%
	23:00	◎	(米) 6月ISM非製造業景況指数	54.6	53.5
7/7		◎	(NZ) 第1四半期GDP [前期比]	+0.2%	+0.4%
(木)	07:45	◎	(NZ) 第1四半期GDP [前年比]	+0.8%	+0.5%
	08:50		(日) 5月機械受注 [前月比]	-3.3%	+3.0%
			(日) 5月機械受注 [前年比]	-0.2%	+10.8%
	10:30	◎	(豪) 6月新規雇用者数	+0.78万人	—
	10:30	◎	(豪) 6月失業率	4.9%	—
	16:15		(スイス) 6月消費者物価指数 [前年比]	+0.4%	—
	17:30	○	(英) 5月鉱工業生産 [前月比]	-1.7%	+1.0%
	17:30		(英) 5月製造業生産高 [前月比]	-1.5%	+1.0%
	19:00	○	(独) 5月鉱工業生産 [前月比]	-0.6%	+0.5%
	20:00	○	(英) BOE政策金利発表	0.50%	—
	20:45	◎	(ユーロ圏) 欧州中銀金融政策発表	1.25%	—
	21:15	◎	(米) 6月ADP全国雇用者数	3.8万人	7.0万人
	21:30		(加) 5月新築住宅価格指数 [前月比]	+0.3%	+0.2%
	21:30	◎	(米) 7/1までの週の新規失業保険申請件数	42.8万件	—
	23:00		(加) 6月Ivey購買部協会指数	69.1	69.3

経済指標カレンダー (7/8)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
7/8	08:50		(日) 5月経常収支	+4056億円	+2780億円
(金)	08:50		(日) 5月貿易収支	-4175億円	-7670億円
	15:00		(独) 5月経常収支	+88億EUR	+70億EUR
	15:00		(独) 5月貿易収支	+109億EUR	+110億EUR
	17:30		(英) 6月生産者物価指数 [コア: 前年比]	+3.4%	+3.3%
	20:00	○	(加) 6月失業率	7.4%	7.4%
	20:00	○	(加) 6月雇用ネット変化	+2.23万人	+1.00万人
	21:30	◎	(米) 6月非農業部門雇用者数	+5.4万人	+8.3万人
	21:30	◎	(米) 6月失業率	9.1%	9.1%
	23:00		(米) 5月卸売在庫 [前月比]	+0.8%	+0.6%
	28:00		(米) 5月消費者信用残高	+62.47億USD	+50.00億USD
	未定		(日) 6月景気ウォッチャー調査 [現状判断DI]	36.0	40.0
			(日) 6月景気ウォッチャー調査 [先行き判断DI]	44.9	—

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com